

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岐阜県揖斐郡池田町立池田中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 503-2418

岐阜県揖斐郡池田町草深485番地1

E-mail ikedachu@school.town.ikedagifu.jp

Website http://www.town.ikedagifu.jp/ikedachu/

幼児児童生徒数 男子 375名 女子 409名 合計 794名

児童・生徒の年齢 12歳 ~ 15歳

2. 報告期間

平成28年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

池田中学校では、ユネスコスクール(ESD)の拠点校として、「Global Well-Being (地域・国際社会の中で共に幸せに生きる)」、地域社会の持続的な発展に貢献するために、国際理解教育、福祉教育に取り組んでいます。

○国際理解教育

①対日理解促進交流プログラム

(JENESYS2016)の

日本中高生訪韓団派遣事業

JENESYS2016

「対日理解促進交流プログラム (JENESYS 2016)」は、外務省による、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、将来、各界にて活躍が期待される優秀な人材を招へい・派遣する事業です。「対日理解促進交流プログラム」日本中高生訪韓団派遣事業は、外務省から委託された公益財団法人日韓文化交流基金と韓国教育部所管の韓国国立国際教育院とが共同で実施します。代表者を決め、3年生22名、2年生23名の合計45名が、10月2日から8日まで、韓国を訪問しました。今年度はJENESYS2017で、韓国から11月13日に韓国の中学生27名が池田中学校にきま

した。中学校3年生の生徒とカルタ取りをしたり、給食を一緒に食べたりしました。全校集会で全校生徒と交流を行いました。

JENESYS 2016

【事前学習】



夏休みの間、事前学習を行いました。まず、私たちは、池田町の代表、日本代表であると、訪韓団みんなと確認しました。韓国では、私たちをサポートして下さる大学生をはじめ、多くの現地の人と関わります。また、大虎中学校で現地の中学生と交流する時間が設けられていました。そこで、韓国の魅力や良さと、日本・岐阜県・池田町が誇れるところを事前に調べ、準備を進めました。

はじめは不安の方が大きかったけれど、学習会を進めていくうちに徐々に韓国という国を知り、「私たちが日本の良さを発信して、この訪韓を成功させよう」という思いに変わりました。日本・岐阜・池田の良さという何を紹介しますか？池田中学校の生活をどのようにして伝えますか？私たちは班ごとで悩み、アイデアを出しました。ある班では、折り紙を紹介し、実際に実物を見せている姿、ある班では、授業の様子を再現して楽しく見せようとしている姿など、相手に私たちが交流を深めたいという気持ちが伝わるように、なじみやすい内容に工夫しました。この頃から、韓国という相手を意識するようになりました。

【韓国での交流】



韓国の文化、社会、歴史を学ぶために韓国では、伝統衣装を着させていただきました。また、韓国民俗村で、竹笛作りと弓矢の体験を行いました。竹笛には、自分の名前をハングル語で書いて頂きました。食事でも、韓定食やトッポッキなども食べる事ができました。



大虎中学校との生徒との交流です。体育の授業では、一緒に大縄を跳びました。数を一緒に数えて跳び、一緒に喜び合いました。また、ダンスの授業やカリグラフィの授業を一緒に受けました。

【全校生徒へ報告】



韓国の人とのつながりを全校生徒にも伝えたく、帰国後、テレビ電話で交流しました。実際に顔を見て話をするのができ、距離は離れているけれど心はつながっていると感じました。

【大虎中学校との交流】



韓国との小さなつながりを大切にしています。今後、つながりを大きく強いものにし、国際理解を深め、共に生きていきたいと思っています。

JENESYS 2017

今年度は27名の韓国の中学生の受け入れを行いました。

【学校活動を通しての交流】

生徒会が主催となり、27名の生徒を歓迎しました。主として行った交流は3つあります。1点目はカルタ取りです。3年生が中心となり、事前準備として日本の文化を伝えるためにカルタを作成しました。取り札には韓国の生徒にもわかってもらえるように、ハングル文字を記載しました。カルタの作成を通して、ハングル文字や韓国語でのものの名前など、韓国の文化に触れることができました。韓国の生徒とともにカルタ取りを行うことを通して、文化や国籍が違っても、楽しいと感じることは同じであるということに気付くことができました。

2点目は学び合いです。集会終了後に、3～4名の7つのグループになり、教室で英語、数学、体育などの授業、そして給食に参加しました。遊びを通しての交流だけにとどまらず、共に学び合うということを通して、学習方法の違いや共通点について新しい発見をすることができました。

3点目は全校集会における合唱やダンスの交流です。日本の3年生の合唱からは、一つのことに向かって、全員で声をそろえるといった一体感を感じてもらうことができました。また、韓国の生徒のダンスからは、一人一人の個性を大切にするという韓国の教育方針を感じることができました。



給食



カルタ取り



韓国文化KPOP

以上の3点の交流を通して、韓国の生徒は、「日本の文化に触れてよかった。」「文化の違いはあるものの、一緒に喜び合えてよかった。これからも友好を深めていけたらよい。」と韓国の生徒は感想に記入していました。また、日本の生徒も「韓国の生徒は一人一人がしっかり自分をもっていることがわかった。日本人も見習いながら、日本のよさも大切にしていきたいと感じた。」「日本語がすごく流ちょうなことに驚いた。私も英語や韓国語を学び、その文化をより学んでいきたいと思った。」と感想に記入していました。限られた時間の中、実りのある交流を行うことができました。

②池田町ニュージーランド海外研修

次代を担う生徒を海外に派遣し、その国の自然、生活、文化、福祉、歴史産業に接することによって、諸外国に対する理解と国際協調の精神を養成し、国際感覚の高い青少年の育成を図ることを目的とした池田町の事業です。2年生の10名が、2017年2月17日～2月25日まで研修をしてきました。



【コブハム中学校との交流】



歓迎会が行われ、コブハム中学校からマオリの歌を、池田中学校からは校歌を披露しました。
その後、授業の様子を見学しました。調理実習では、巻き寿司を作っていました。理科の教室は、研究室のようになっており、驚きました。



All Englishで授業です。
その後、老人ホームにお土産で持って行く、ロリーケーキを作りました。



バディのクラスの授業を受けました。リーディングの授業や体育の授業にも参加しました。体育の授業は、グループで決めた種目をグループ毎に行っていました。



老人ホームを訪問しました。歌を披露したり、折り紙を折ったりしました。お年寄りの方は、とても、喜んでいました。



ウイローバンク公園の見学に行きました。始めに、マウイ文化を学びました。ポイヤハカなどを教えてもらいました。そして、私たちの日本の歌を披露しました。さらに、ニュージーランドの自然も学びました。ニュージーランドにしか生息していないキウイなどの動植物を観察することができました。



全員がそろって無事に帰国することができました。私は、この研修で積極的に現地の人々とコミュニケーションをとり、自分の英語力を高めることができました。たとえ、話したいことが伝わらなくても伝わるまで話しかけ、いつも笑顔でいることができて本当によかったです。また、ホストファミリー、コブハム中学校やヒルモートン高校の皆さんとあっという間に楽しく過ごすことができました。この研修の何よりのお土産はこのすばらしい思い出とかけがえのない体験だと思います。私は、この研修で手に入れた何にでもチャレンジする勇気や知りたいと思ったことをとことん探究する姿勢をこれからの生活に生かしていきたいです。

③英語スピーチコンテストに積極的に参加

多くの生徒が英語スピーチコンテストに参加しました。その中で、多くの生徒が町大会、郡大会、地区大会を突破し、2名の生徒が、地区予選を突破し県大会に進むことができました。



④ユニクロ「服のチカラ」プロジェクトに参加

今年度、1年生は「総合的な学習の時間」を活用して、ユニクロ「服のチカラ」プロジェクトに参加しました。本プロジェクトは、子ども服を回収、ユニクロを介して難民に届けるという活動です。その活動を行うために、以下のことを行いました。



【貧しさを知る事前学習】

「もし、世界が100人の村」だったらという学習を通して考えました。私たちが普段当たり前だと感じていることが、世界ではいかに当たり前ではないということに改めて気づかされました。



自分にご飯を食べれたり、きれいな水が飲めたり、今こうやって文字を書くことが当たり前のようにできているのをとてもありがたく思いました。また、苦しんでいる人を少しでも助けたいと思いました。

【服のチカラについての講話を聴く】

ユニクロの職員の方に来てもらい、世界の難民と呼ばれる人々の生活がどのようなものか、どのような手段で服を届けるのかということをお話いただきました。



そして、服のチカラプロジェクト。近隣のユニクロの店長さんから講話をいただき、シリア難民の方が、どのような理由で、どんな生活をしているのかをお話いただきました。また、私たちが使わなくなった子ども服がシリア難民の子どもたちを助けることにつながることを知りました。

【服の回収活動】

各クラスで服を集める活動を始めました。掲示物をつくったり、呼びかけを行ったりすることで、1枚でも多くの服を回収することができました。また、先輩方や先生、地域の小学校も訪ねて協力を依頼しました。



池田中学校の先輩方や先生方にも声をかけ、生徒玄関前で回収活動も行いました。さらには、地域の小学校、子ども会にも依頼して服を集めることができました。その結果、約一ヶ月の活動を通して、約3000枚、ダンボール箱にして30箱を超える数の子ども服を回収することができました。

この活動を通して、僕たちは自分たちの生活が世界では当たり前ではないこと、自分たち中学生でも国際社会に貢献することができることを学ぶことができました。また、何かをするときには自分から行動し、仲間に声をかけることで、たくさんの仲間が協力してくれて、最初の目標を大きく超える子ども服を集めることができました。最初の一步は小さくても、仲間が増えていくことで、とても大きなことが成し遂げられるということがわかりました。



○福祉教育

他者の立場や心情を思いやり、互いに支え合う心や態度を養うことボランティア活動等に参加することを通して、共に幸せに生きていく喜びを感じる心を育てています。

① 常時活動

- 温言活動 → 挨拶運動や温かい言葉がけ
- アルミ缶回収 → 被災地に義援金を送る
- 園芸活動 → 花壇の花を育てる



② ボランティア活動

今年度、地域のボランティア活動に参加した生徒の割合が96%です。

校外ボランティア活動

- ・ 霞間ヶ浜桜祭り
- ・ 広葉樹植栽事業
- ・ 西美濃さくら苑
- ・ ふれあいの家「元気まつり」
- ・ 福祉運動会
- ・ 町民運動会
- ・ みの池田ふるさと祭り
- ・ サンビレッジチューリップ祭り
- ・ 池田町スポーツ大会
- ・ 児童館夏祭り
- ・ 町民スポーツフェスティバル
- ・ 陽の里まつり
- ・ 間伐体験
- ・ クリーン活動

ボランティア活動の様子



福祉施設での演奏会



フォークダンスの
デモンストレーション



児童館夏祭り

昨年度、生徒から募集した以下のデザインを採用して、ベストと帽子を作りました。ボランティアに参加している生徒は、このベストと帽子を着用してボランティアをしています。





○ユネスコスクール ESDパスポート体験発表会で発表（H28、H29）

本校の活動を大垣市ユネスコ協会主催の発表会でユネスコスクールの高校と一緒に発表しました。また、ESDパスポートで30ボランティア達成した生徒と15ボランティア達成した生徒が表彰されました。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統 文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な 生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・進路学習に関わる教材「生きる」
- ・ひだ高山、名古屋、東京研修に関わるパンフレット
- ・ユニクロ「服のチカラ」プロジェクトに関わるパンフレット

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校においては、ユネスコスクールとしての活動を「総合的な学習の時間」に位置付けている。1年生は年間50時間、2、3年生は年間70時間を目安として、指導を行ってきた。その方法としては、国際理解に関しては、各教科の先生に各分野から考えられるESDの活動について講義をしてもらった（理科の先生からはフェアトレードに関わる話、社会科の先生からは貧困に関わる話など）。また、外部からも講師を招き生徒が国際理解について考えるきっかけをつくることができた。また、福祉教育に関しては、サンビレッジ国際医療専門学校の先生を招き、体験型の講義を行ってもらった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

役職としてESD（総合学習）担当職員が位置付いている。また、各学年にもそれぞれESD担当職員がおり、連携しながら活動に取り組んでいる。教職員派遣事業に積極的に参加し、今年度は3名の職員が韓国に派遣された。また、全校集会の場における発表や生徒会からの活動紹介を通して、生徒一人一人がユネスコスクールの一員であるという自覚と誇りがもてるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

キャリア教育とも関連させながらアンケートを実施し、生徒に意識調査を行っている。「将来に対する夢があるか」という項目や「ボランティア活動に積極的に取り組んでいる」といった項目で8割近い生徒が「はい」と回答していることがわかった。しかしながら、依然2割の生徒が将来に対する願いや、ボランティア活動に参加できていない実態があることもわかった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

近隣地域(大垣市)で行われた体験発表会で実践発表を行った。具体的には、1年生で取り組んだ「服のチカラ」プロジェクトや3年間を通じたボランティア活動で得られたことを伝えた。また、学校からの通信を活用して各学年での取組内容を紹介してもらった。活動の成果を発信したことによって、地域やユネスコ協会の方にも活動内容を周知してもらい、来年度に向けての協力をしてもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

国際理解教育に関しては、日韓交流文化基金やACCUとの交流、さらにはユニクロの活動への参加を行った。韓国への教員の派遣や韓国人教員、韓国人生徒の受け入れを実施することで国際交流の機会とすることができた。また、福祉教育においては地域の医療専門学校の先生を招いての講話、体験授業を行うことで、高齢者や障害をもった人々の思いに触れることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

昨年度はJENESYS2016の活動を通して、韓国のテホ中学校と交流することができた。ニュージーランドへの派遣事業では、コブハム中学校と交流することができた。また、今年度は韓国の中学生を受け入れ、生徒同士での交流、環境学習に関わって、日韓共同宣言を行うことができた。以上の交流を通して、生徒は「私たちにとって当たり前は当たり前でない」ということに気づき、より広い視野で物事を考えることができるようになった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

ESD活動に参加することで、生徒の意識に大きな変化を感じた。特に1年生においては、貧困や難民について知ることを通して、「私たちは当たり前前に水を飲むことができるが、世界では多くの方がそのようにできていない」ということに気付くことができる生徒が多くいた。そういった中で行った「難民に服を届ける」活動では、生徒を中心に3000枚を超える子ども服を集めることができた。

※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

平成30年度では、各学年で核となる活動を位置付けて活動を行っていく。1年生においては、国際理解教育を中心に位置付けた。核となる活動はユニクロ「服のチカラ」プロジェクトとして、国際社会を生きる私たちにできることは何かを考え、自分たちで行動することの大切さを考えさせたい。2年生では、キャリア教育を中心に位置付けた。核となる活動は篠島研修における「民宿の方との語る会」や「職場体験学習」として、地域によっても職業観や形成されるキャリアが異なることに気づき、自分の進路に生かそうとする態度を育てたい。3年生では、進路学習を中心に位置付けた。「高校説明会」や「高校見学」、さらには「東京研修」を通して、自分の進路や将来をより具体的に思い浮かべて考えることができるようにしたい。